



# 結

2019. 11. 16 No.90 yui

発行「憲法9条の会つくば」  
〒305-0005  
つくば市天久保 1-10-12 1-401  
Tel/Fax 029-858-2034



<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>

## 14周年記念のつどいのお礼

憲法9条の会つくば 14周年記念のつどいにお越しく下さいました皆様、開催に際し諸準備などご協力下さいました皆様、真にありがとうございました。当日は約200名の市民が集い、沖縄の辺野古基地建設の賛否を問う県民投票を身を挺して実現させた元山仁士郎さんの「沖縄のアイデンティティーと日本の民主主義」と題する講演に耳を傾けました。限られた時間ではありましたが、辺野古基地建設、米軍基地の存在に抗う元山さんの姿に沖縄の心に触れた思いがしました。元山さんの行動



力、その若い力から元気をいただきました。オープニングの片平博さんの勇壮な和太鼓と後半の稗田隼人さんの情熱あふれるギター演奏からも平和をつくろう、憲法9条を守ろうと願う私たちにエールを送っていただきました。



皆様ご存知のように、沖縄の首里城が焼失しましたが、今、全国各地で再建に向けて協力の輪が急速に広がっています。決して、あきらめない沖縄の人々の思いに、日本各地の市民が共鳴



しています。私たちも、沖縄、そして全国の市民と連帯して、憲法9条を守り抜き、本当の国民主権を実現させるために、つくばから、茨城から声をあげ、若者からシニア世代まで、共に力を合わせて行動していきたいと期しております。今後ともご支援ご協力下さいますようお願い申し上げます。

実行委員長 石上俊雄



〈記念講演〉

## 沖縄のアイデンティティと、日本の民主主義

元山仁士郎さん(「辺野古」県民投票の会元代表)



元山さんは大学在学中、東京でシールズの活動に関わると同時に、沖縄で「シールズ琉球」の設立に参画したのち「辺野古」県民投票の会代表として活動、沖縄県民投票を実施にこぎつけ、投票者の72%が辺野古新基地建設に反対するという結果を引き出しました。今日の講演では、この経験を踏まえながら、沖縄の人々のアイデンティティの根幹をなす「基地問題についての思い」が本土の人々と共有できていないのはなぜか？について、レジュメとパワーポイントを使ってお話ししていただきました。

### 1. 沖縄の基地問題に関する3つの問いかけ

(1)なぜ沖縄は二度も県民投票をせざるをえなかったのか？

沖縄では、1996年に「日米地位協定の改定と米軍基地の整理縮小」についての県民投票を実施しており、今回の「辺野古米軍基地建設のための埋め立て」をめぐる県民投票は、2度目の県民投票となる。いずれの場合でも、沖縄だけの「県民投票」として実施された。しかし、これらの問題は沖縄だけの問題ではなく、日本国全体の問題だったのであり、本来、「国民投票」として全国民に問われるべき問題ではなかったか。

(2)沖縄と「連帯する」とは何か

本土の人々は、沖縄と「連帯する」といつも言う。しかし、沖縄で県民投票をするというような事態であるのに、本土の人々は、そのことについて何をしてきたのか。

(3)基地は、軍事的に見て沖縄に置かなくてもよいはずなのに、なぜ沖縄なのか

今日、配布されている資料「戦後 沖縄のあゆみ」の最初に、沖縄県企画部作成の「沖縄の位置:太平洋の要石」と題する地図が掲げられている。沖縄は、軍事的な中心地点ではないのに、こうした地図などで、そう思い込まされているのではないか。日本をはじめ太平洋から北東アジアを守る中心地点として沖縄が必要、という考え方はもう必要ではなくなっ

ているにもかかわらず、基地は沖縄に集中している。つまり、基地は、政治的理由で沖縄に置かれていることになる。本土の人々はこの点を考えてほしい。

### 2. 基地問題とはなにか

基地問題は、決定への不参加と、その結果の不公平という2つの側面を持つ。

(1)決定への不参加

ある特定の地域やそこに住む人々が、ある決定によって被害・影響を受けるにもかかわらず、その決定には参加できない、という不条理

(2)その結果の不公平

ある特定の地域やそこに住む人々に負担が集中しているのに、その負担は他の多くのもの(たち)の利





益によって正当化され、不公平が分断と対立をもたらす不条理

沖縄は、こうした基地問題を抱え、それが沖縄の人々のアイデンティティ形成の根幹となっている。これらの不条理は、基地問題に限らない。例えば、原発の問題も同じではないか(高橋哲也「犠牲のシステム:福島・沖縄」集英社)。沖縄と本土の人々のアイデンティティは共通するものがあるのではないか。それを理解してほしい。

### 3. 県民投票について

#### (1) 経緯の概要

2018年4月16日に「辺野古」県民投票の会を設立

5月23日～7月23日の2か月で署名を集める。1か月経っての署名数は、法定必要署名数が2万3000余なのに5000筆にすぎず、残りの1か月で頑張り、総数9万2848筆を集めた。

8月8日、翁長県知事死去、9月30日、玉城デニー氏が県知事に

10月26日、県民投票条例成立

2019年1月15～19日、5市長に県民投票への参加を求めてハンスト

1月29日、賛成・反対に、どちらでもないを加えた条例に改正

2月24日、県民投票。投票率52.5%、基地反対72%、賛成19%

#### (2) 成果

- ① 沖縄政治史初の、政治・社会的実績を残した市民・若者主導の運動であった
- ② 沖縄全土で基地問題を議論することができ、若者が議論に加わった

③ 沖縄の人々の思いを可視化でき、日本政府・日本に住む人々への明確な問題提起ができた

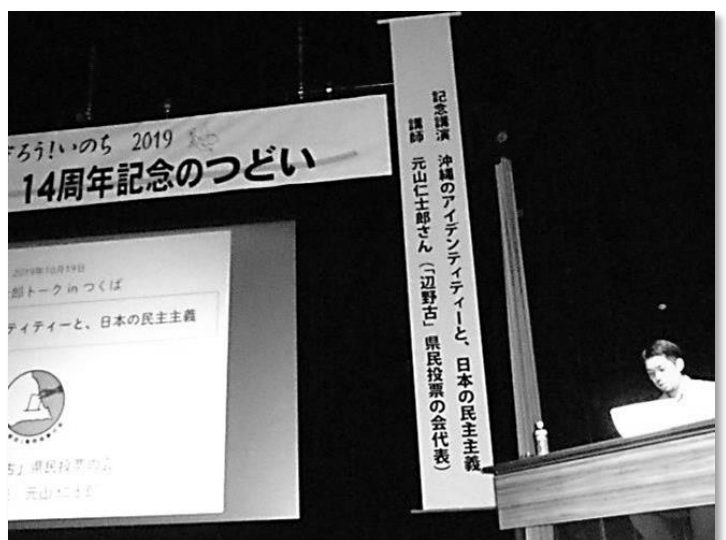
#### (3) 課題

- ① 県民投票で盛り上がった意識の継続
- ② 若者の政治参加の維持：自分の考えを押し付けるのではなく、若者の話をよく聞き、若者と対話できる大人が多ければ、若者の政治参加は維持可能
- ③ 県民投票後の一人ひとりのアクション

### 4. 本土の人々への呼びかけ

辺野古基地建設反対との沖縄県民の意思は示された。しかし、基地建設のための埋め立ては強行されている。「いま、ボールは本土、沖縄以外に住む日本の人々に投げられている。あなたは何をしてきて、これから何をしていくのか。沖縄に基地があり続ける、この現状・構造を直視してほしい」「日本で基地や安全保障について、どれだけ議論がなされ、選挙や住民投票で“民意”が示されてきたのか？基地問題は、地方自治、民主主義、人権など普遍的価値にかかわる問題である。日本の政治は一体何を大事にするのか、ということも問われている」これは、元山さんが講演されるまえ、「結」89号に寄せられた一文である。沖縄のアイデンティティに対して、きちんと応えられていない日本の人々に対し、いま自分がいるところで何ができるか、沖縄の人々とともに考えませんか、との元山さんのメッセージである。

今回の講演会は、元山さんの急な予定変更で講演時間が短くなり、質疑応答も出来ない状況下で行われたため、十分な議論の展開にはならなかったかもしれない。しかし、沖縄の人々の根底にある思いを理解する貴重な機会を頂いたと思う。(長田)



# アンケート紹介



20 通のアンケートのうち講演について 16 件の感想が寄せられました。「元山さんの姿勢に共感する」という声がある一方、「沖縄のアイデンティティーと、日本の民主主義」という演題に対して「期待が外れ」という声もありました。

以下、それぞれ代表的な例を挙げます。

- \*元山さんの講演はお人柄がよくわかる内容で、とてもよかったですと思います。話し合いを大切にすることが、とてもよいと思います。レッテルを貼りあっているだけでは、永遠に話し合いはできないと思います。それにしても 1ヶ月で 95000 筆、沖縄県民の底力を感じて感動しました。(60 代、男、取手市)
- \*元山さんの講演は素晴らしい内容でした。「もっと話を聞いてくれる大人が近くにいたら」と彼の気持は参考になります。意見が違って相手の話を聞き、自分の意見も言う関係が重要だと思いました。(賛同人、70 代、男、つくば市)
- \*27 歳の元山仁士郎さんの生のお話、すてきでした。幅広く若者たちとかかわりながら進む姿勢に未来を見た！！
- \*初めて参加した「つどい」ですが、とてもよかったです。「参考資料」もずいぶん分力が入っていて、これから参考にさせていただきます。(賛同人、60 代、男)
- \*元山さんの講演は良かった。もう少し時間があればもっと良かったと思います。(賛同人、60 代、男)
- \*元山さん講演について、貴重な運動に参加され、辺野古の問題を世に問うたことはわかりましたが、運動からの教訓、「沖縄」という問題にとって今何がカベとなっているか、日本国民が進むべき道は何なのか、といったことを、しっかり私たちの胸に響かせるお話にはなってなかったと思います。従って「沖縄のアイデンティティー」や「日本の民主主義」を 14 周年記念のつどいとして十分深める会にはならなかった感があり、大変残念に思います。元山さんの冗長な話し方も問題でしたが、企画側の問題も大きいと率直に感じました。(賛同人)
- \*元山さんの話、おもしろかったが、もう少しはしょって、沖縄のことも詳しく聞きたかった。(賛同人、80 代、男、つくば市)
- \*もっと時間を取り、さいごまで話をききたかった。話が県民投票にかたよりすぎた。もっと根本的な話(地位協定の不合理性とか)話してほしかった。講演のタイトルと内容がズれていた。(賛同人でない、67 歳、男、つくば市)

ギター演奏や太鼓演奏に「素晴らしかった」、「楽しみ来た」というアンケートが 8 件ありました。

- \*稗田さん素晴らしい演奏でした。ハヤンチューがんばってください。片平さんオープニングの演奏有難うございました。「つくどん」の一ファンです。
- \*私もギター音楽が大好きなので今日はこれも含めて楽しみで来ました。…(ギターも最高でした。)(賛同人、70 代、男、かすみがうら市)



- \*稗田君のギターを聴きたくて参加いたしました。…太鼓、もっとききたかったです。ギター最高。今日来てよかったです。
- \*稗田氏の演奏はすばらしかったが、曲の紹介の印刷物があるべきだった。曲名、作曲者名、—どういう曲か—、稗田氏の経歴もつけて、稗田氏と「9 条の会」のつながりはなんだったのかききたかった。(賛同人でない、67 歳、男、つくば市)

## 「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2019年11月10日現在

総数 1005名 (市内 721名)

◆3000万署名 11月10日現在 4403筆

当会では毎月第3日曜日に定例署名、9日に9の日署名を行なっています。その他、「戦争をする国づくりNO@つくば」と共に、毎月3日「アベ政治を許さない」スタンディングと署名を行ないます。

### 3000万署名 戸別訪問の報告 小野川地域

9月23日秋分の日、夕、台風の影響で残風の中でしたが小野川地域中央部の1戸建約110世帯を対象に3000万署名戸別訪問を行いました。

また2回目の行動として、10月27日(日)に同地域南部の1戸建約120世帯を対象に、3000万署名戸別訪問を行いました。どちらも「3000万署名つくば連絡会」に参加する憲法9条の会つくば、新婦人つくば支部、年金者組合の共同行動です。

地元の賛同人の6名の方が署名の呼びかけ人になっていただきました。1回目では地元のUさん、Sさん、Mさんに、また、2回目はUさん、Mさんが呼びかけと署名用紙をあらかじめポストインしてくださいました。

1回目の署名行動には、地元の呼びかけ人のうちOさん、Sさん、Mさん、Uさんの4名が参加くださり、12人が5組に分かれて戸別訪問を行いました。あとからUさん宅に届けられた署名を合わせると73筆(当会分は42筆)でした。かってない参加の規模と成果でした。30筆集められたSさんは、楽しかったという感想です。

10月27日の2回目の行動は、地元のUさん、Mさんの参加も得て、10人4組で戸別訪問しました。寄せられた署名は40筆(当会分は21筆)でした。4地域でそれぞれ反応も様々ですが、訪問を待ってくださる方々、ポストに署名用紙を出してくださる方々が目立ちました。署名していただけない方も対話が弾む場合もありました。終了後の感想で、賛同人にお誘いしようということもあり、次回は賛同申込を用意することになりました。

第3次の行動は11月23日(土、祝祭日)の午後3時からを予定しています。(H.N)

### 10.21 県南大集会

「憲法9条を守ろう!命と暮らしを守る10.21 県南大集会」が11月1日つくばイノベーションプラザで開催

され、参加者は70名超えでした。岩月康範氏(日本平和委員会)による「日本国憲法を活かすために～日米地位協定はどうなっているのか、そして沖縄は～」というテーマでの講演でした。日米地位協定とは日米安保条約第6条に基づく協定で、在日米軍の権限などを定めている。主権国家間の条約であるにもかかわらず、裁判権、空の主権、思いやり予算など、ことごとく日本の主権が侵されていることが解った。米軍

基地が集中している沖縄では、米兵による事件、事故、騒音被害など多発している。全国知事会では、沖縄県の故・翁長知事の提起で研究会をつくり議論、日米地位協定の抜本的見直しなどを求める「提言」が昨年7月に全会一致で採択されたとのことです。(武田)

### 11.3 憲法集会 in 国会前 ～1万人が参加～

日本国憲法公布から73年の11月3日(日)14時～15時半、国会前行動に1万人(主催者発表)が集まって、「安倍改憲発議阻止」「辺野古新基地建設中止」

「東アジアの平和と友好」などを訴えました。9条の会つくばからも、多数の参加がありました。

主催者挨拶では、上記の訴えの他、英語民間試験を延期させた世論の力に触れ、声を上げることが政治を動かすと訴えました。立憲野党(到着順に、社民・福島、共産・穀田、立民・逢坂の3氏)からも「市民と野党の共闘で憲法が生きる政治をめざそう」と力強いアピールがありました。また、韓国からの代表団のスピーチでは、ヘイトスピーチなどで嫌韓をあおり改憲に突き進む安倍政権を批判し、歴史の真実に目を向け「日韓市民が連帯して憲法を守ろう」と述べられました。

その他、「身の丈」発言に象徴される「格差」拡大の政策、愛知や川崎での表現への抑圧、安保法制の違憲性と自衛隊海外派遣の問題、性暴力や女性差別の放置…等々、“アベ政治”の実態が次々に糾弾されました。



## 誰がために憲法はある

2019年/ドキュメンタリー映画/69分

冒頭、女優の渡辺美佐子（撮影当時、85歳）がひとり語る。「私の姓は『日本国』、名は『憲法』。『憲法くん』と呼んでください。憲法は“国民から国への命令書”70歳になります。今、変えてはならない所が、現実合わなくなったからと無理に変えられようとしている」「私というのは、戦争が終わった後、こんなに恐ろしくて悲しいことは二度とあってはならない、という思いから生まれた、理想だったのではありませんか。理想と現実がちがったとき、現実を理想に近づけようとするのではないのでしょうか」「その誕生にアメリカの血が混じっていたとしても、その命の価値は変わるのでしょうか」「私の初心、私の魂は、憲法の前文に書かれています」

そして、日本国憲法・前文が力強く朗読される。

「私のことを自虐的だとかプライドを持ってという人もいるが、この70年間、一人の人も戦争によって殺し殺されることがなかったことを、誇りに思う」

映画は、ベテランの女優たちの原爆詩の朗読劇のとりくみを追う。渡辺美佐子は、初恋の人を疎開先の広島で亡くしたことを戦後35年目の1980年になって知った。彼の死を知った渡辺は、中心となって現在まで33年間、鎮魂の想いを込めて原爆朗読劇の公演を続け、全国各地を回っている。女優たちそれぞれが、企画・制作・運営も担ってきた。しかしその活動は、今年で幕を閉じる。

広島・長崎の記憶が年を経て薄れていくのは仕方がないが、教科書にすら原爆の記述は少ししか載っていない。公演を観た学生たちは「私たちが伝えていこうと思った」と言っているのに、伝えていきたい世代からの要請が減り、伝える側は高齢化している。

### インフォメーション

#### ◆12・8不戦のつどい

日時：12月6日（金）18：00～20：00

場所：並木交流センター大会議室

講演「『表現の自由』が奪われた時代を生きて一北海道・生活凶画事件と私たちの今」川嶋均氏（東京藝術大学ドイツ語講師）資料代：500円

主催：12・8不戦のつどい実行委員会

#### ◆映画上映「誰がために憲法はある」

日時：12月6日（金）1回目10：30～、2回目14：00～

場所：つくば市ふれあいプラザ

入場料：一般1000円/障がい者：無料

主催：つくば共に文化を育てる会

問合せ：萬波 090 - 4369 - 7469



渡辺は、最後に語る。「政治に興味を持って、どんな形であれ、若い人に続けてほしい。」「憲法前文が持っている『理想』を、私たち一人一人のものに。」

そして、もう一度、日本国憲法・前文の朗読が、字幕とともに映し出される。その一言一句の意味を噛みしめたい。

\* \* \*

ポレポレ東中野での昼間の上映の最後となる日（5/24）上映後に井上淳一・監督の舞台挨拶があった。

- 安倍政権は、今までどの政権も手をつけなかった「改憲」に向かって、数の力と横暴なやり方で次々と悪法を成立させてきた。私の師である若松孝二・監督は、「映画を武器に権力と闘う」と言ったが、韓国や欧米にあるそういう映画が、日本ではほとんど作られてこなかった。
- 自民党の改憲草案は、「国民主権の縮小」「戦争放棄の放棄」「基本的人権の制限」。憲法の精神の真逆をめざすもので、戦争への道を拓こうとしている。
- こういう映画を作っても、観に来てくれるのは「戦争反対」「原発反対」の人であって、“自己確認”にとどまる。「表現」はしても「表現の力」たり得ていない。
- この映画は、コメディアン・松元ヒロの一人語り『憲法くん』をもとにしているが、もう長くは続けられないと思っている高齢の女優が演じることに意味があると思った。
- この映画の反省が二つ――。

①沖縄の問題を取り上げなかったこと。

②被害だけで、加害も描けなかったこと。

②に関わっていえば、自分は“改憲”論者。憲法の1～8条はなくして、9条からでいい。平成天皇があまりにもいい人だったので、護憲派の人たちも、天皇制の問題に目を向けることが弱くなっている。「憲法」は、時代を超えた壮大なプロジェクトなのです。（後藤）

### 行動予定

11月16日（土）13：30～世話人会 並木交流センター

11月17日（日）12：00～13：00 定例署名 アルス前

11月23日（土）15：00～小野川地域戸別署名

12月3日（火）13：00～アベ政治を許さないスタンディング つくば駅A3出口13：30～署名行動 アルス前

12月9日（月）12：00～13：00 9の日署名センター広場

12月15日（日）12：00～13：00 定例署名 アルス前

12月21日（土）10：00～事務局会 市民活動センター

2020年

1月3日（金）13：00～アベ政治を許さないスタンディング つくば駅A3出口予定

1月9日（木）12：00～13：00 9の日署名 アルス前

1月12日（日）時間未定 成人式署名 カピオ周辺予定

1月18日（土）13：30～世話人会 並木交流センター